

いたばし小P 互版



平成23年12月
第1号

北川容子教育長に 聞きました！

インタビュアー：後藤小P連合会長

吉田会長 (志村六小)

後藤・吉田：今日はよろしくお願ひいたします。楽しみにしています。

北川教育長：「JICAのイベント」。

吉田：わっ、わっそこんですが、お子様はいらっしゃいますか？

北川教育長：一人だけです。仕事しながらの子育でした。

吉田：子育てで大事にされたことは何ですか？

「自分で判断できる子に育てる」

北川：私のところは育児休業はありませんでした。子どもが6週間から保育園に預けて、いろんな人に子どもを見てもらいました。何かあると助けてもらえる家族をいっぱい作って、それこそ家族ぐるみで付き合いました。私が見たり、見てもらったり、そういう関係を作ることがすごく大切だと思います。

「子どもが自分でできると考えて、判断できて、行動できる」というのを一番大切にしましたね。

吉田：今の子どもたち、「こつなっはこつ」と思っているからですか？

「生き抜く力」

北川：基礎学力が重要なのは確かですが、

応用力やその上に発展させる力は大人になってからでも吸収できるから子を子どもは持っている。

子どもの「育つ力」はすごいなと思います。

ですからあまり親から押し付けなくてほしいと思います。

今は、少し過保護になっていると思います。

子どもが何かをやる前に、「何が必要?」と言って、親が全部そろえてあげてしまいがちです。

親が手を出さずに子どもを信用して見ていることが本当に必要な時代になっているなと思います。

特に「生きる力」「生き抜く力」が必要だといわれてきていますが、どんな状況になっても、どんな時代になっても、生き抜くたくましい「心の強い子」に育てほしいと思います。



写真：北川教育長

「心の強い子を育てる」

後藤：いや感動です。教育長だからとって勉強のことなど言われるのかなと思っていたのですが、確かに「心の強い子」

を育てないといけないって本当に思いますよね。

北川：心の強い子を育てるためには、

①一つ目は『体力』です。体力をつけるのは体育の授業ではなく、普段の遊びなんです。

区長はアイキッズを進めています。本当にすばらしい事業だと思っています。

後藤：保護者からの評判もいいですよ。ね。

「遊びが体力を作る」

北川：子どもたちが遊ぶ場所ができて、色んな遊びを色んな学年と一緒にやって、「遊びが体力を作る」という、すごくよい施策だなと思います。

「感動体験を作る」

②二つ目は、『感動体験』をやることで

最近の子どもはしらけていますよね(笑)。

色んな感動をして「よかったね」「すばらしいね」「楽しかったね」と本当の体験をしてほしいと思います。

「基礎学力をつける」

③そして三番目は、『基礎学力』です。基礎学力がなければ発展させられませんが。

板橋ではフィードバック学習などもやっています。議会からは「板橋は学力ナンバーワンを目指してください」といわれたりしますが(笑)、でも私たちがやりたいのは、まず基礎学力をつけることです。そうすればその結果としてナンバーワンになるかもしれません。

吉田：PTAに求められるものは何でしょうか?それから、お母さん方へのメッセージがあればお願いします。



写真：左から後藤会長、北川教育長、吉田会長

「PTAは親の学校」

北川：今のPTAのお母さん方は本当に大変だなと思います。働いているお母さん方でもできるような活動にしていくことが必要だと思います。そうすればお父さんたちも参加できますしね。

私は、PTAは親の学校だと思います。PTA活動を通じて保護者の一人ひとりが「少し成長したな」と感じられる。

「ああ、やってよかったな」という充実感が感じられる。そんな活動をしてほしいと思います。

そしてもうひとつは、人と人とのつながりです。公立小学校のよさは、いろいろな人と出会えることだと思います。地域のいろいろな人々とお付き合いできるのがPTA活動のよいところだと思います。

(詳しくはWEBページ)

<http://ita-sho-pors/>

会長だよ

〜つつあんです〜

会長 後藤 和彦

『小P連とは?』

「えっそれって何?」そんな答えが返ってきそうですね…。
 それもそのはず、私自身もPTA会長になるまではその存在を全く知らなかったです。

『小P連』とは板橋区内の区立小学校のそれぞれのPTAが加盟している団体で、正式には『板橋区立小学校PTA連合会』といます。

加盟校数は五十二校、これを六つのブロックに分け、更に四つの委員会を主軸に活動を行っております。

主な活動をご紹介しますと、多少馴染みのあるところで

①ポウリング大会

②ピーポ110番事業

③広報誌コンクール

最近では

④被災地支援

などでしょうか。

また、あまり知られてませんが

⑥PTA保険の加入

⑦地区毎の情報交換会や歓迎迎会

なども『小P連行事』の一環です。

『小P連だから出来ること』

学校で起きた様々な問題は、校長先生

とよく話し合い解決して行くことが基本です。

しかし各校PTAだけでは対応しきれない問題が起きた時や、関係機関に働きかけをする時などが、実は『小P連力』が発揮される時です。

例えば三月の大震災の際、子どもたちの下校方法が学校によって様々でした。これを『震度5以上は基本引き取り』と一本化してもらえるよう『小P連』として働きかけました。

学校耐震化や教室の冷暖房完備、最近では各校における放射能測定なども『小P連活動』としての大きな成果です。

また保護者の目線で先生方や教育委員会に意見をお伝えする機会として、校長会の先生方との意見交換会や文藝児童委員との勉強会なども行っております。

更には板橋区を越えて『東京都PTA連絡会』と連携し、東京都教育委員会への働き掛けも行っております。



『これからの板橋区小P連』

いまひとつPTA会員に理解・認知されていない『小P連』。

これは

- ①身近で役立てていない
 - ②広報力がない
- の二点が問題であると考えます。

これらを是正するために、小P連の担当委員会などで議論をし、各校のPTA役員さんに役に立つ情報提供を発信し、子どもたちが喜び思い出に残るイベントを開催してまいります。

続いて広報については、今ご覧いただいているこの広報誌が刷新番です。従来は年一回の小冊子型でしたが、今後は年二回のカラー刷りとします。また新たにHPも開設いたしました。

行事や会長会の模様などリアルタイムで更新され、簡単なお役立ち情報もありますので、是非活用ください。

すぐに出来ることと時間が必要なこと、いろいろありますが、全ては私たちの大切な宝物である子どもたちのために、子どもたちの目線に立って、一生懸命取り組んでまいります。

皆様からたくさんのご意見を頂いて、この『小P連』を育てていきたいと思います。お願いします。

今後とも宜しくお願いします。

広報さん必見!

お役立ちコーナー

学校における公文書の慣例漢字

NG	Good	例
子供	子ども	不特定多数を指す場合、「子ども」となる
子供達	子どもたち	
友達	友だち	
元気一杯	元気いっぱい	
御礼	お礼	厚くお礼申し上げます
平素	日頃	日頃より、PTA活動にご協力いただき…
ご多忙中	ご多用中	多忙は「心」を「なくす」

ただし、世間の一般慣例ではありません

学校における公文書の慣例漢字

NG	Good	例
又、…	また、…	
尚、…	なお、…	
良い(良く)	よい(よく)	運動会もよいお天気に恵まれ…
出来る	できる	PTAでもできるようになりました。
参る	まいる	取り組んでまいりたいと考えております。
分かる	わかる	比較するとわかりやすいと…

委員会の紹介

子どもたちの笑顔のために

ピーポリー10番委員会

委員長 森 剛

当委員会では「子どもたちの安全・安心」を念頭においています。本23年度は「子ども110番」、「食品安全講習会」、「被災地支援」三つの事業を主軸に活動を行っています。

この板橋区が発祥である「子ども110番」ブリートも、今では全国と規模を広げています。また「安心・安全講習会」を開催し、町に潜んでいる危険箇所の洗い出しとそのマップ作成を学びました。

「食品安全講習会」では、保健所から講師をお呼びし、秋のイベントシーズン前に行いました。過去に食品事故で大変だった前会長の体験談は、強く胸に染み入りました。



そして「被災地支援」。今年は私たちの日本を根底から揺るがす震災が起り、とても多くの方が犠牲になりました。また放射

活動を行っています。その一環として一学期に皆様からの善意を夏服・卓上ゲーム等の寄付というかたちで集め、南三陸町や女川町などの子どもたちに届けました。

これからも板橋の子どもたちの健全な成長を願い、いつまでも安心・安全に過ごせるように活動を行っていきたいと思います。

教育問題対策委員会

委員長 近藤 洋子

「無理せず、無茶せず、成果を出す」をモットーに十七校の会長が集まって今年度の委員会は始まりました。活動は板橋区議会文教児童委員会の傍聴、会長の百冊読書、そして漢字検定等の受検応援情報の提供でした。中でも、「会長の百冊読書」は加盟五十二校の会長が各々



お薦めの図書二冊を小P連のホームページに載せ百冊が達成されるという楽しい企画です。

九月八日は校長会社教育対策部の先生方と意見交換会を開き、学校経営について、小

学校教育において子どもにとって大切にしたほしいもの、親の課題などについて話し合いました。九月二十二日には東京都公立小学校PTA連絡会拡大会議に出席し、小P連として行政に対し要望を出すことの意味、その方法と道筋を学ぶことができました。

厚生委員会

委員長 新田 英一

厚生委員会では従来の三大事業中、「親子ふれあいコンサート」、「親子ふれあいボウリング大会」の今年度の開催が困難となり、新たな事業を模索する事からスタートを切りました。



その代替案として、一つは「親子ふれあい体育系イベント」。もう一つは会場を変更して「ボウリング大会」の開催を検討しております。そして

「小P連ママさんバレーボール大会」は例年通り今大会も各地区熱い戦いを繰り

広げております。

委員会一同、精一杯頑張ります。皆様のご理解とご協力をお願いします。

広報委員会

委員長 平澤 信彦

今年度はすべてがゼロからの挑戦でした。広報誌の刷新とホームページの作成の二本柱で委員会がスタートしました。

小P連の広報誌をもっと保護者のみなさんに読んでいただけるものにした、ホームページを作り最新の情報をいち早くみなさんに届けたい、という思いで取り組んでおります。

今年の委員は少数精鋭で、『フットワークのよさ』を持ち味に、活動しています。

インタビューにご協力いただいた北川教育長をはじめ、取材等にご協力いただいたみなさまに感謝申し上げます。



小P連ホームページ

板橋小P連 検索

被災地支援活動報告

子どもたちに笑顔を

小P連は板橋区最大のボランティア組織です。東日本大震災後、様々なところから「小P連はなにをしているんだ」という声もいただいております。できることであれば、被災地に対して直接支援をしたいという思いから、支援先を探しております。

様々な模索の結果、宮城県南三陸町のPTA連合会とコンタクトを取ることができました。

六月七日、板橋小P連の代表として数名の会長で南三陸PTA連合会事務局のある伊里前小学校を訪れ、関係者のみなさんからお話をうかがい、要望を聞き取りました。そして支援の第一弾として、草刈り機をお贈りしました。

また、「夏服や卓上ゲーム、虫よけなどが不足している」という要望を受け、六月に呼びかけ支援物資を募りました。その結果、トラック三台分もの物資が集まりました。



志村二小体育館での仕分けの様子



トラックへの積み込み作業

翌朝、トラックで被災地へ支援物資を届けました。



支援物資のお礼に届いた写真

特に、トランプや卓上ゲーム等は子どもたちが大変喜んでくれたとのことでした。支援物資を提供くださった方々に厚くお礼申し上げます。

初めて訪れたときからの要望の一つ

に「子ども祭り」の開催がありました。伊里前小学校には現在、伊里前小と名足小の二つの小学校の児童が通っております。校庭の半分は仮設住宅となっております。運動会を開催することができないでいました。震災から八か月たち、ようやく野球場を使ってスポーツ大会を開くことが決まりました。

そこで、その大会の午後、「子ども祭り」を開いてほしいとの希望にこたえ、十一月十二日(土)に小P連の有志、小P連OB会、板橋南三陸支援協力会による「子ども祭り」が行われました。



食品ブースに長蛇の列!



シャボンに入り喜び子ども

当日は小学生や保護者など700名以上の人でにぎわいました。

集まった方々に食品ブースをはじめ、ゲームの景品などすべて無料で提供しました。会場は子どもたちの笑顔であふれました。

帰り際に「こりゃあ孫たちに最高の運動会だったなあ、ありがとう」と声をかけてくれたおじいさんの笑顔が忘れられません。

「子ども祭り」の開催に深いご理解と協力をいただきました教育委員会・校長会、そして「被災地支援基金」を通じてご支援いただきました全ての皆様感謝いたします。



上：小P戦隊・ピエロと記念撮影！
左上：支援に行った有志一同
左：PTA会長たちの寄せ書き



編集後記

一人でも多くの人に読んでもらいたいという思いで、今回の広報誌を作りあげました。この紙面を通じて、私たち小P連の活動がたくさんの人に伝われば幸いです！ありがとうございました。